

2016年2月8日 NEWS RELEASE No.126

『第10回 しょうゆ感想文コンクール』入賞者決定！
—全国の小学生(3年～6年)から、1,465点の応募—

日本醤油協会(会長 濱口道雄)では「食育」推進の一環として、「第10回しょうゆ感想文コンクール」を実施いたしました。

この感想文コンクールは、食育事業として協会が実施している「しょうゆもの知り博士の出前授業」と「工場見学」に連動した企画で、全国の小学生(3年生～6年生)を対象に、出前授業や工場見学で学んだこと、体験したことを感想文という形で記録にとどめることを目的に、広く自由な発想の感想文を募集する企画です。

昨年12月11日(金)に応募を締め切り、全国の児童から2つの部門に合計1,465点の応募をいただきました。それぞれの部門に日本の伝統調味料である“しょうゆ”について、子供らしい感性豊かな感想文が数多く寄せられました。

去る1月29日(金)に、下記の選考委員による「審査委員会」を開催し、厳正な審査の結果、別紙のとおり、各部門の入賞作品を決定いたしました。

なお、「審査委員会」では、予備審査を通過した65点の作品の中から、A：創造性(構想力)、B：文章力、C：発展性、等を選考基準として、厳正な選考を行いました。

《第10回「しょうゆ感想文コンクール」審査委員(敬称略・順不同)》

奈須正裕 (上智大学総合人間科学部教授)
畑江敬子 (お茶の水女子大学名誉教授)
松田博康 (玉川大学教職センター教授)
若手三喜雄 (共栄大学教育学部教授)
正田 隆 (醤油PR運営委員会委員長)
金子 収 (日本醤油協会専務理事)

また、「第11回 しょうゆ感想文コンクール」は、本年4月より開始いたします。(応募締め切り：平成28年12月9日(金))。これまで以上に全国の多くの児童の皆さんからのご応募をお待ちしています。

第10回しょうゆ感想文コンクール入賞者一覧

2016年2月8日

主催：日本醤油協会

審査委員：奈須正裕（上智大学教授）

畑江敬子（お茶の水女子大学名誉教授）

松田博康（玉川大学教授）

若手三喜雄（共栄大学教授）

正田 隆（PR運営委員会委員長）

金子 収（日本醤油協会専務理事）

賞名	受賞者詳細		
1. 最優秀賞 (各部門1点・計2点)	出前授業部門	世界へはばたけ日本の「しょうゆ」	
	鹿児島県	出水市立大川内小学校	6年
	工場見学部門	香ばしいかおり	
	兵庫県	播磨高原広域事務組合立播磨高原東小学校	4年
		きりとおし ねね 切通 寧々	
		たまきく きのか 玉作 乙香	

2. 優秀賞 (各部門1点・計2点)	出前授業部門	「発酵」のふしぎ	
	大分県	大分市立豊府小学校	5年
	工場見学部門	ずっと食べたいヒガシマル	
	兵庫県	関西学院初等部	4年
		かきぎ けいたろう 笠木 啓太郎	
		こてら ゆうこ 小寺 結子	

3. 佳作 (各部門5点・計10点)	出前授業部門	歴史に残せ・・・	
	山梨県	山梨学院大学附属小学校	6年
	出前授業部門	「和」	
	山梨県	山梨学院大学附属小学校	6年
	出前授業部門	しょうゆという名の調味料	
	兵庫県	神戸市立広陵小学校	6年
	出前授業部門	淡口しょうゆと濃口しょうゆのちがい	
	岡山県	岡山市立津島小学校	3年
	出前授業部門	しょうゆマジック	
	大分県	大分市立豊府小学校	5年
	工場見学部門	ヤマサしょうゆ工場見学	
	千葉県	市川市立南行徳小学校	4年
	工場見学部門	地きゅうにやさしいおしょうゆ造り	
	岐阜県	海津市立吉里小学校	3年
	工場見学部門	うす口しょうゆの力	
	兵庫県	関西学院初等部	4年
工場見学部門	しょうゆの香りに包まれながら		
兵庫県	播磨高原広域事務組合立播磨高原東小学校	4年	
工場見学部門	しょうゆのヒミツ		
香川県	小豆島町立苗羽小学校	3年	
		あきやま すてら 秋山 星遥	
		よこうち れい 横内 零	
		こすぎ ももか 小杉 桃華	
		こばやし ゆきえ 小林 由紀恵	
		ふじわら まさと 藤原 雅仁	
		こぼた まあや 小島 麻綾	
		おおほし みなみ 大橋 未菜美	
		きとう あんな 佐藤 杏南	
		すずき まな 鈴木 葉奈	
		おかべ しんた 岡部 芯太	

4. 審査委員特別賞 (各部門1点・計2点)	出前授業部門	しょうゆってすごい	
	岡山県	浅口市立金光小学校	3年
	工場見学部門	いろんな発見	
兵庫県	たつの市立河内小学校	4年	
		まし みさと 岸 美聡	
		きざき ゆうく 木崎 悠久	

賞名	都道府県	学校名
団体奨励賞 (1校)	兵庫県	関西学院初等部

※学年は平成27(2015)年度です

「第10回しょうゆ感想文コンクール」最優秀賞 講評（審査委員会）

●出前授業部門 最優秀賞

題名：世界へはばたけ日本の「しょうゆ」

切通 寧々 さん（鹿児島県・出水市立大川内小学校 6年）

前半では、スペインでの生活の中で、「しょうゆのおかげ」で「いつも身近に日本食が」あり、「日本人に生まれた幸せを感じ」たり、お別れパーティーでも「しょうゆのおかげで国際交流ができ」「何より日本の味を受け入れてもらったことがうれしかった」とのエピソードが、「サーモンのトロリとした油に、しょうゆがジュワーと光る」といったリアルな描写を伴って豊かに語られます。

そして後半では、帰国後に受けたしょうゆの出前授業を通して、海外生活を彩ってくれたしょうゆの秘密に鋭く迫るのです。注目したのは、三百種類にも上る香り成分とこうじ菌が活躍する生産工程。そして、「しょうゆは世界にも認めてもらえる自然食品」であり、「日本のほこりであるしょうゆ」を将来における国際交流の「強い味方」と締めくくります。

多彩な表現技法を随所に的確に散りばめながら、しょうゆに象徴される日本の誇りを携え、世界にはばたく未来への希望を語った何ともカラフルな一品です。

●工場見学部門 最優秀賞

題名：香ばしいかおり

玉作 乙香 さん（兵庫県・播磨高原広域事務組合立播磨高原東小学校 4年）

「すごいなあ」という端的な書き出しで始まり、次第に何がどのような意味で「すごい」のか、自分の直感的印象を分析し、工場見学で見聞きした事実を立体的に組み上げながら、説得力のある記述で論じていくという構成が、まずもって個性的で素晴らしいです。

「すごい」と感じた中身に分け入ると、しょうゆのボトルを「上につみかさねると月につきささるほどのりょう」であること、水質を確認するために「貯水池でこいをかう」知恵、何より地元である「西播磨のめぐみがぎゅっとつまっている」ことを自分事としてうれしく感じるなど、鋭い洞察と的確な表現で、読む者を釘付けにします。併せて、しょうゆを造る人たちにも一貫して熱い視線が注がれている点も、実に素敵です。

まとめの一文、「家のしょうゆのボトルに鼻を近づけて、においをかいだら、工場の風景を思い出しました」が、タイトルの「香ばしいかおり」と呼応しているあたりは、もう見事という他はなく、万事が超4年生級の作品と言えましょう。

以上の件に関する取材のお問合せは

しょうゆ情報センター（醤油PR協議会）
大関 恒雄（事務局長）、中川美代子
住所 東京都中央区日本橋小網町3-11（〒103-0016）
電話 03-3666-3286 FAX 03-3667-2216
URL : <https://www.soyosauce.or.jp/> E-mail : soyic@soyosauce.or.jp